

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

【基本情報】

氏名・団体名： Vanadis
石川里緒 河野穂乃果 坂本梓

学校名： 徳島県立脇町高等学校

① あなたが関心を持つグローバルな社会課題は何ですか？
その課題を選んだ理由や、きっかけとなった出来事・経験などがあれば教えてください。

私が関心を持つグローバルな社会課題は、「持続可能な死後のあり方」、すなわち環境負荷の少ない葬儀の仕組みです。これは、気候変動や資源の枯渇といった地球規模の環境問題と密接に関係しています。

この課題に関心を持ったきっかけは、祖母の葬儀を経験したことです。火葬まで数日待たなければならず、費用も高額でした。また、火葬によるCO₂排出や遺骨の処理方法について調べる中で、現代の葬儀が環境に与える影響の大きさを知りました。

さらに、自然葬や樹木葬といった代替的な方法が注目されていることを知り、死後も自然の一部として循環するという考え方に強く共感しました。これらの方法は、環境負荷を減らすだけでなく、故人の意思や家族の価値観を尊重する新しい選択肢でもあります。

このような経験から、私は「循環葬」という新しい葬儀の形を提案し、持続可能な社会の一部として広めていきたいと考えるようになりました。

あなたが興味を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

② その課題の解決に向けて、あなたが考えるアイデアやアプローチを教えてください。

技術、仕組み、キャンペーンなど、発想そのものを自由に書いてみよう！

私が考える解決のアイデアは、「循環葬」という新しい葬儀の仕組みを社会に導入することです。これは、火葬を行わず、遺体を微生物や土壌改良技術を用いて分解し、樹木の肥料として活用するという自然循環型の埋葬方法です。

この仕組みは、以下の技術とアプローチによって実現可能だと考えています：

技術面：遺体を安全かつ衛生的に分解するためのバイオ分解技術や、土壌改良材としての活用方法を研究・開発します。

仕組み面：火葬を前提とした現行の法律に対して、特区制度を活用し、循環葬を合法的に実施できる地域を設けます。

キャンペーン面：環境負荷の少ない葬儀の選択肢として、循環葬の認知度を高めるための啓発活動を行います。SNSや地域イベントを通じて、若い世代にも関心を持ってもらえるような発信を行います。

また、地域の山林を活用することで、地元の自然再生にも貢献でき、故人が「自然の一部として生き続ける」という新しい死生観を社会に広めることができます。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

③ そのアイデアを実現するとしたら、どんな準備やステップが必要になると思いますか？

「いつ・どこで・誰と」連携するか、必要なリソースや協力体制など、実現までの道筋を描いてください。

「いつ・どこで・誰と」連携するか

【スケジュール計画】

いつ：2025年9月～2026年3月（半年間の実証準備期間）
どこで：徳島県美馬市脇町周辺の里山地域（自然環境と地域協力が得られやすい）
誰と：地元自治体（法的調整・特区申請）
環境技術企業（遺体分解技術の開発・提供）
地元住民・農家（地域理解と協力）
大学・研究機関（倫理・環境影響の調査）
NPO法人（啓発活動・キャンペーン）

月	活動内容
2025年9月	プロジェクト立ち上げ・関係者との初期連携
2025年10月	地元自治体と特区申請の準備・法的調査
2025年11月	技術パートナーとの試験設計・環境影響評価
2025年12月	地元住民への説明会・意見収集
2026年1月	実証フィールドの整備・試験開始
2026年2月	中間報告・メディア発信・啓発キャンペーン
2026年3月	実証結果のまとめ・次年度への提案準備

必要なリソースや協力体制

【予算計画】

約300万円

①総予算：

②費用の内訳（例…印刷費2万円、交通費5万円）：

項目	金額（円）	内容
技術開発費	1,000,000	微生物分解技術の試験・装置導入
フィールド整備費	500,000	埋葬地の整備、土壌改良
説明会・広報費	300,000	地元住民向け説明会、パンフレット制作
調査・研究費	400,000	大学・研究機関との連携調査
人件費	500,000	プロジェクト運営スタッフ報酬
交通・運搬費	200,000	関係者の移動、資材運搬など
その他予備費	100,000	不測の事態への対応費用

③資金調達方法

（例…クラウドファンディング、学校からの補助金）：

クラウドファンディング：環境・地域貢献型プロジェクトとして広く支援を募る
自治体の補助金：地域活性化・環境保全事業として申請
企業協賛：環境技術企業や葬儀関連企業との連携
大学・研究機関の助成金：社会実験・倫理研究としての支援

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

JANIC2025学生アイデアコンテスト応募用紙



その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

※当てはまる方に☒をいれよう！

④ そのアイデアの実現に向かって今のあなたが踏み出せそうな一歩（アクション）はありますか？

☐すでに取り組んでいることがある：できるだけ具体的に教えてください。

☐まだ実行していない：「これなら始められそう」と思う最初の一歩があれば書いてみてください。

・また、そのアクションを始めるうえで、あるいはさらに広げていくうえで、自分にとってどんな支援や環境があると助かるかも教えてください。

今の私が踏み出せそうな一歩は、地域の人々へのヒアリング活動と啓発キャンペーンの準備です。

まず、地元の人々に「循環葬」という考え方について意見を聞くことで、実現に向けた社会的受容性を探ります。地域の高齢者や農家の方々、自治体職員など、さまざまな立場の人に話を聞くことで、課題や期待を具体的に把握できます。

次に、学校や地域イベントで「環境にやさしい葬儀」について紹介するミニキャンペーンを企画します。ポスターやSNS投稿を通じて、若い世代にも関心を持ってもらえるよう工夫します。

また、大学の先生や環境NPOに相談し、技術面や倫理面でのアドバイスを受けることも、今すぐ始められる行動の一つです。

これらの小さな一歩が、循環葬の実現に向けた大きな土台になると信じています。